

KJS

京都社会学年報

第28号
2020年12月

松田素二 教授退職記念号

28

京都大学文学部社会学研究室

[編集規定]

1. 本誌は京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室の機関誌として、年1回発行する。
2.
 - 1) 本誌の編集は、「京都社会学年報」編集委員会の責任のもとに行われる。
 - 2) 編集委員会は本研究室の教員および大学院生代表者により構成される。
 - 3) 編集委員会に関するその他の細目は別に定める。
3. 本誌には、研究論文のほかに、書評論文、資料等の欄を設ける。
4.
 - 1) 本誌の投稿者は、原則として京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室に所属する専任および非常勤の教員、ならびに大学院生・研修員、研究生とする。
 - 2) 投稿に関する細目は別に定める。
5. 論文等は、未公刊のものに限る。
6. 論文等は、編集委員会によって審査され、その掲載について検討される。
7. 本誌に掲載された原稿の著作権は、社会学研究室に帰属するものとする。著作者が本誌に掲載された文章を再録しようとする場合は、事前に本研究室に届けでる。
8.
 - 1) 論文等の原稿は、所定の執筆要項に準拠したものに限る。
 - 2) 執筆要項は別に定める。

松田素二教授ご退職記念号によせて

太郎丸 博

2021年3月末をもって社会学専修の松田素二先生が、京都大学文学研究科をご退職されることになりました。この『京都社会学年報』第28号は、松田先生のご退職を記念し感謝の意を表すための特集号として刊行します。松田先生は多くの学生を指導してこられました。この『年報』が教員による査読システムをとるようになって以来、松田先生は多くの論文を審査され、その過程で多くの論文のクオリティが改善されてきました。今号では院生、修了生をはじめ、研究室の同僚・後輩が先生に感謝の気持ちをこめて寄稿しています。

松田先生は1979年に京都大学文学部を卒業され、1984年には文学研究科博士課程を中途退学されました。その後、大阪市立大学を経て、1993年からは本学の准教授、2002年からは教授となり今日にいたっています。その後は頻繁に専修主任を務められ、社会学専修を実務の面からも支えてこられました。2018年度から2年間は副研究科長も務められ、文学研究科の運営にも大きく貢献されました。

松田先生は、文化人類学や社会学にとどまらない領域横断的な研究スタイルの持ち主であり、日本でも屈指のアフリカ学者として知られています。フィールドワークを中心にした手堅い実証と抽象水準の高い理論的な思考を有機的に結びつけることで、優れた研究成果をあげてこられました。松田先生の語り口は平易ですが、その内実のクオリティは高く、それらが高く評価されていることは、巻末に掲載の受賞歴や学会役員歴にもあらわれています。

このようなずば抜けた学識は教育面においても発揮され、理論・実証の両面から、多くの学生・研究者をサポートしてこられました。私が赴任してからは学部でも大学院でも社会学専修で最も学生に人気のある教員であり、KURENAI（京都大学学術情報リポジトリ）に登録されている博士論文だけでも、2002～2019年のあいだに主査として20編、副査として29編を審査されており、平均すると毎年3編近くの博士論文を審査されていることになります。

松田先生がご退職されることは、私たち社会学専修の教職員や学生全員にとってたいへん残念なことです。これまで先生が築いてこられた未来のための礎と、数々のご恩に対して、心から感謝の意をこめて、この特集号を先生に捧げます。

目 次

〈論 文〉

COVID-19 緊急事態宣言下における在宅勤務の実態調査 —— 家族およびジェンダーへの効果を中心に ——	落合恵美子 鈴木 七海	1
メタ分析によるセクハラ大学教授の平均年齢と身分の推定	太郎丸 博	15
コロナ禍における質的調査と権利擁護 —— 外国人住民を対象とした生活実態調査を事例として ——	安里 和晃	29
Precarious Employment and the Transformation of the Japanese Labor Market (1980s-2010s)	Stéphane HEIM	55
後期近代における性的政治の条件としての複数性 —— ジュディス・バトラーの法制度に関する記述の変遷から ——	戸梶 民夫	83
An Imperative Cultural Trend?: International Film Co-production Policy in Japan	Suhyun KIM	99
二次創作文化の集団論的検討	河原 優子	127
Shaping Stances in Post-Industrial Societies: Two Decades of Change in Attitudes Towards Unequal Income Distribution	Joanna KITSNIK	149
感染症流行期における看護師の報道から見る「中国特特色社会主義女性性」 —— 『人民日報』を例として ——	劉 恒宇	175
住宅所有の世代間連鎖	佐藤 慧	201

〈書評論文〉

ウェーバー中国社会論の再検討 Jack Barbalet, <i>Confucianism and the Chinese Self: Re-examining Max Weber's China</i> (Palgrave Macmillan, 2017)	吉 琛佳	223
「女兒選好」 —— 中国農村部における家族変動 —— Lihong Shi, <i>Choosing Daughters: Family Change in Rural China</i> (Stanford University Press, 2017)	宋 円夢	231
アメリカのミドルクラスの崩壊 —— 原因、結果、解決策 —— Kevin T. Leicht and Scott T. Fitzgerald, <i>Middle Class Meltdown in America: Causes, Consequences, and Remedies</i> (Routledge, [2006] 2014)	LEE HANSOL	241

*

*

*

松田 素二 教授 略歴・著作目録

269

〈執筆者紹介〉（掲載順）

インターネットが利用可能な方は、社会学研究室ホームページをご参照ください。
アドレスは <https://www.socio.kyoto-u.ac.jp/> です。

落合 恵美子
教授

家族社会学、歴史社会学、比較社会学、ジェンダー論

太郎丸 博
教授

社会階層論、数理社会学

安里 和晃
准教授

移民研究、アジア研究、社会福祉論

ステファン ハイム
准教授

経済社会学、産業社会学、組織論

戸梶 民夫
非常勤講師

理論社会学・セクシュアリティ論。現在の研究テーマ：
後期近代社会における性的政治の分析と評価

Suhyun Kim
博士課程 2 年次

Her recent article is “International Coproduction of Korean Films in the 2010s” published in *Korea Journal*, 2019, and her research interest is about film co-production and industry in East Asia.

E-mail: sue.march33@gmail.com

河原 優子
博士後期課程 2 年次・日本学術振興会特別研究員 DC

メディア研究、文化社会学

現在の研究テーマ：二次創作文化の集団論的検討

Joanna Kitsnik
博士後期課程 2 年次

Her research is focused on topics related to civil society in Eastern Europe, income inequality and intergenerational inequality.

劉 恒宇
博士後期課程 1 年次

家族社会学、歴史社会学、ジェンダー論

現在の研究テーマ：社会主義近代化における中国家族と女性

E-mail: liuhengyu2020@gmail.com

佐藤 慧
修士課程 1 年次

社会的不平等・住宅研究
現在の研究テーマ：住宅をはじめとする資産所有の不平等
E-mail: sato.kei.mail@gmail.com

吉 琛佳
博士後期 3 年次

社会学理論、社会学史、知識社会学

宋 円夢
修士課程 2 年次

家族社会学、メディア社会学
現在の研究テーマ：現代中国社会における「二人っ子政策」
以後の家族像の再編成に関する社会学
的研究——マス/ソーシャルメディアに
よる表象の変容を通して——
E-mail: songyuanmeng1@gmail.com

LEE HANSOL
修士課程 1 年次

社会階層論、数理社会学
現在の研究テーマ：女性の世代内移動とライフコース研究

編集後記

▼松田素二教授の退職記念号となる今号には、学生からの6本の論文、3本の書評論文に加え、教員陣の論文が掲載されています。感染症予防のためのオンライン体制がつづいた今年度は、編集作業もすべてオンラインですすめました。研究室恒例の顔合わせ行事もおこなわれず、院生同士でも互いに顔も知らないことが少なくありません。こうした状況下で、以前から希薄化してきている院生間のつながりはさらにあやうくなり、従来は人づてでゆるやかに伝わっていたこの『年報』の役割や仕組みも共有されがなくなっています。そこで委員としては次号以降、『年報』の投稿過程や院生間のコメンテーター制度について、はじめての投稿者にもよりわかりやすく伝えられる資料や伝達方法の整備を行います。と同時に、委員であるか否かを問わず、この貴重な雑誌の維持・改善を院生全体の課題として共有し協力しあえるような、院生関係のこれからの姿に期待しています。最後に、今号の完成に至るまでご支援いただきました研究室内外のみなさまへ、心よりお礼申し上げます。

第28号編集委員 D3 鈴木越生 D3 KIM Suhyun D2 大木香葉江 M1 小梢みなみ

▼今号は、今年度末で退職される松田素二先生の退職記念号です。松田先生の個人研究室は私のお隣で、よく松田先生との面談の順番を待つ学生が、廊下で待っていたのを思い出します。松田先生はお忙しいので目を離れた隙きにどこかに行ってしまうないように、学生は部屋の前で待っているわけです。私は彼らを「松田先生詣で」と密かに呼んでおりましたが、その松田先生詣での学生は累計で相当な数に上り、在学生だけでなく卒業生も含まれます。私だったらあんなにたくさん面倒見きれんなー、いつも思っておりましたが、それだけ松田先生が学生に頼りにされていたということでもあります。松田先生は、教育だけでなく研究や講座運営も含めたすべての面において社会学専修への貢献が大きすぎて、残された教職員にとっては松居和子さんが退職されたときに匹敵するショックですが、何とか残されたメンバーで先生の教えを継承して、社会学専修を守り立てていきたいと思います。

『京都市社会学年報』編集代表 太郎丸博

〈査読委員〉

松田素二 落合恵美子 田中紀行 太郎丸博 安里和晃 丸山里美 ステファン・ハイム

京都市社会学年報 第28号

2020年12月25日発行

編集 京都市社会学年報編集委員会
(編集代表 松田 素二)
発行 京都大学大学院文学研究科社会学研究室
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-2758 FAX 075-753-2836
製作 株式会社 田中プリント
〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入
TEL 075-343-0006 FAX 075-341-4476



この本はそのまま読むことが困難な方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は発行人へご連絡をください。

《Editorial Regulations》

1. This journal is an annual publication of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University, Kyoto, Japan.
2.
 - i) This journal is edited by the Editorial Board of the Kyoto Journal of Sociology.
 - ii) The Board consists of the professors and postgraduates of the Sociology Department.
 - iii) Details of the regulations of the Board are specially provided.
3. Contributions to this journal may be in the form of articles, review essays, etc.
4.
 - i) Contributors are generally limited to professors and postgraduates of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University.
 - ii) Guidelines for contributors are specially provided.
5. Contributions are limited to previously unpublished articles.
6. Review of contributions is carried out by the Editorial Board.
7. The copyright for each article included in KJS belongs to the Department of Sociology. In cases any article published in KJS is reproduced elsewhere, the author should notify the Department in writing.
8.
 - i) Manuscripts submitted for review must follow the writing guidelines for contributors.
 - ii) The writing guidelines for contributors are specially provided.

Kyoto Journal of Sociology

No.28 December 2020

ARTICLES

- Working from Home During the COVID-19 Pandemic:
Results of a Survey on the Effects of Staying at Home on the Family and
Gender Relations in Japan Emiko OCHIAI, Nanami SUZUKI
- Meta-analyses of Mean Age and Rate of Sexual Harassment by Professors in Japan:
Is Power Relevant in University Sexual Harassment? Hiroshi TAROHMARU
- Reciprocity in Qualitative Research and Rights Advocacy in Response to COVID-19:
A Case Study of the Living Conditions of Foreign Residents Wako ASATO
- Precarious Employment and the Transformation of the Japanese Labor Market (1980s-2010s)
Stéphane HEIM
- Plurality as a Condition for Sexual Politics in Late Modernity:
Based on Judith Butler's Evolving View of the Legal System Tamio TOKAJI
- An Imperative Cultural Trend?:
International Film Co-production Policy in Japan Suhyun KIM
- Considering Fan-fiction Culture
from the Perspective of the Social Group Yuko KAWAHARA
- Shaping Stances in Post-Industrial Societies:
Two Decades of Change in Attitudes Towards Unequal Income Distribution Joanna KITSNIK
- Socialist Femininity with Chinese Characteristics:
Analysis of the Image of Nurses in *People's Daily* during Infectious Periods Hengyu LIU
- Intergenerational Transmission of Homeownership in Japan Kei SATO

REVIEW ESSAYS

- Jack Barbalet,
Confucianism and the Chinese Self: Re-examining Max Weber's China
(Palgrave Macmillan, 2017) Chenjia JI
- Lihong Shi,
Choosing Daughters: Family Change in Rural China
(Stanford University Press, 2017) Yuanmeng SONG
- Kevin T. Leicht and Scott T. Fitzgerald,
Middle Class Meltdown in America: Causes, Consequences, and Remedies
(Routledge, [2006] 2014) Hansol LEE